

かみあわせについて歯科衛生士の基礎知識を高めるための入門書



歯科衛生士にも知ってほしい かみあわせの本

ペリオにもかかわるの？

中沢勝宏 著

B5判/98頁 定価：4,200円＋税
医歯薬出版（2014年9月）

(株) Tomorrow Link

評・濱田智恵子 (歯科衛生士)



歯科の三大疾患の3番目に当たるのは「不正咬合」です。「かみあわせ＝咬合」の問題は、実はすべての歯科疾患にかかわります。しかし、私たち歯科衛生士にとって「齲蝕・歯周病」は臨床でつねに頭にあるものの、咬合については「あまり身近に感じていない」「大事なのはわかっているけど実際はよくわからない」という人も多いのではないのでしょうか？

実際に、歯科衛生士の臨床業務においては、疾患の原因を追究するために「早期接触を含む咬合」「TCH」「ブラキシズム」といった咬合の問題を把握せずには進められないことが多くあります。これらは、歯周治療やメンテナンスを行う際にも絶対に忘れてはいけないチェック項目です。本書は、臨床現場で歯科衛生士が患者さんの口腔内をみたときに「これは咬合の問題かもしれない」という気づきを得るための判断に必要なポイントを与えてくれる本です。

まず「症例編」では、どのように咬合が歯科疾患と関係しているかが症例とともに紹介されており、たとえば過重負担が歯周病にも強く関連していることなどがわかります。また、顎関節症患者のケースだけでなく、重度歯周病患者への症例を通じたアプローチ法や、そこにいきつくまでの「かみしめチェック法」といった臨床でみるべきポイントが解説されているコラムも必読です。「知識編」では、歯科衛生士が苦手の顎関節の構造や、咬合や咀嚼筋についての解剖学的な解説があります。歯科において、どの領域を学ぶときにも解剖学は必ず必要な知識ですので、こちらも重要な章です。「実践編」では、歯科医師だけではなく歯科衛生士も携わることができる診査項目や方法、テンポラリークラウン作製時のコツなどが明記されており、私たち歯科衛生士が咬合に対してできることがたくさんあることということも、本書で述べられています。知識編のまとめに記されていた、「よい咬合」という定義は学問的には存在しないが、「よくない咬合でない咬合」が「よい咬合」かもしれないという言葉が印象的でした。だからこそ、私たち歯科衛生士は“よくない咬合”を知る必要があり、臨床で咬合の問題に気づけることも、本当の意味で患者さんの健康をサポートすることにつながるのではないかと思います。

本書の著者であり、私の恩師でもある中沢勝宏先生のもとで、歯周治療を行う際に必要とされる病理学的な視点と同時に、咬合についての学びが得られたことは、私の歯科衛生士人生にも大きく影響を及ぼしています。本書は日々の臨床での疑問点を解決してくれるヒントとなりますので、ぜひお役立てください。